

近未来原発TPP物語  
( SF )

～人間らしいロボットの食べ物～ 5 Days of tw novel

著 ラナ

ドイツではTPPが廃止された。「透明の箱」制度が廃止されたからだ。透明の箱に入れた情報は全て見えなくなってしまうんだ。人間らしいロボットはマイナスの情報をこの「透明の箱」に入れて見えなくしている。（こんなことあっていいの？）カーキは困惑してしばらく声が出なくなった。

カフコクFTAは、「踏んで、叩いて、ありがたく頂く作戦」の略。ニホトのTPPは、「叩いて、ペチャッと潰して、ペッと吐き出す作戦」の略である。どちらも人間らしいロボットの作戦だ。(フフ、まだ気が付いているのは少数だ。うまくコトが進んでいるぞ・・・)

人間らしいロボットの独り言「お前たちのとこの原発放射能食物は食べられなくなる。ウチのをやるから、この不平等な条約TPPを結びなさい」(これ又の名をトホウにくれてるあいだにペチャッと潰して、ペッと吐き出すの略。さらに、ウチの呪いのタネをバラまけば、完璧だ。。) )

（家庭菜園を作ったら逮捕されるクニなんて！！！！）地球上唯一の人間らしい人間カーキは声を失った。

人間らしいロボットが栽培を指導する新しいなぞの遺伝子をもつ作物によって大量のミツバチがしんだ。ミツバチがしんだので、花に花粉を運ぶものがいなくなった。その☆から花が消え、作物が消え、木が消える。